
未来の自分へ 今、私は幸せですか？

KENSHIN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未来の自分へ 今、私は幸せですか？

【Nコード】

N4727H

【作者名】

KENSHIN

【あらすじ】

KENSHINの完全オリジナル小説です(?)

第1章 プロローグ

ここは、幼稚園から大学までが一貫となっている文部省承認の学校「大空学院」（国立）である。この学園に入るためには条件があり、その条件というのが「孤児」で無ければならなかった。そんな学園には伝統があり、その伝統というのが小等部卒業時に未来の自分に向けメッセージを書いてタイムカプセルに入れ埋めるというものである。

未来の自分へ

今の自分はとても幸せですか？そして、誰とその時間を過ごしていますか？

この手紙を見ているのなら、手紙の裏に書いてアルバムにしまっておいてほしいです。

12歳の自分より

そう、手紙に書いてタイムカプセルに埋めた蒼井海とその親友の佐々木友は、

「ねえ、海は好きな人がいるの？」

「え！？／＼い、いないよ／＼そんな人！そういう友はいるの？」

「いないけど、さっきの反応を見る限りだと海にはいるのか？」

「もう、友！！」

と話が盛り上がりつつも2人とも寮に帰ろうとしている。

この学園は孤児しかいないため、たくさんの生徒が寮で暮らしていて社会に出ても困らないように家事等を当番制で行っている。小等部の2人は今まで当番にはならなかったが中等部になると当番が回ってくるようになる。

「もう、小等部での生活も終わりだね。友は部活何にするのか決めてるの?」

「ウチ?ウチは決めてないよ。海は部活何にするの?」

「ワタシは入らないよ」

「え、もつたいないよ海!海は何でも出来るんだから何か入るべきだよ!」

「でも、ワタシは生徒会に入ってみようかなって考えているから友もやらない?」

「うーん、考えとく。夕飯食べにいかない?」

食堂に向かって歩く2人。この物語はそんな2人が中心の恋物語である。

第1章 プロローグ（後書き）

皆さん、こんにちはKENSHINです。

この小説は僕の完全オリジナルになります。

まあ、「大空学園」の設定がおかしいですが…

さて、この小説に関する

質問、感想、評価、意見等お待ちしております。

それから、もう1本の小説のほうも呼んでいただけたらと思います。
以上KENSHINでした。

レッスン1 中等部入学式

今日は中等部の入学式。この学園は、女子はセーラーかブレザーかを選択でき

男子は学ランかブレザーかを選択できるようになってる。

「海はセーラーにしたの？」

「うん、そっだよ。友はブレザーだね！」

「ウチはこっちのほうが可愛いつて思ったからね」

そんな感じで入学式の会場に進む2人。今は服の話題で盛り上がっているようだ。

「ところで、海は誰のことが好きなの？鋼谷それとも北城？」

「こんな事教えるの友だけだよ！ワタシはね鋼谷君がすきななの／＼」

「赤くなつて可愛い〜海！海なら大丈夫だつてウチ応援するから！」

「有り難う友！ワタシが好きな人教えたんだから、友も教えてよ！」

「良いよ。ウチは南野が好きなんだ〜」

「南野君か。結構やさしいからね！」

好きな人の話で盛り上がっているうちに会場に着いた2人は学生証をみせ会場に入る。

「…以上、新入生代表蒼井海！」

「新入生退場！皆さん拍手で送り出してください」

入学式が終わりクラスも確認した2人は教室に向かっていた。

「いや〜、海すごかったよ！しかも憧れの鋼谷大地と一緒にクラスだしね！」

「ウチも海と同じクラスでよかったよ。分からないところは教えてね！」

「友！教えるだけだからね！！ワタシのを写そうとしないでね！」

「分かってるって！ウチも南野玄と同じクラスか〜うれしいな〜／／」

無事2人とも同じクラスになり好きな人と同じクラスなのだが、どうやって話しかけていいのか話していると…

「君が蒼井さんだよな？俺は鋼谷大地よろしく」

「よ、よろしく鋼谷君。あと、こっちが親友の友」

「よろしく、鋼谷君。ところで、君の隣にいるのは誰だい？」

「あ、ごめん。右から俺のダチの南野玄・北城翼・東龍」

「「「よろしく。蒼井さん・佐々木さん」「」」

「なんで私が蒼井海だって分かったの？」

「初等部で有名だったんだよ。運動以外なら何でも出来て、学年で一番可愛いつて！」

それに佐々木さんも学年で一番明るい女子として有名だったんだ」

「じゃあ、私たちはここでも有名コンビなの？」

「そうじゃないかな？この2人の好きな人がうらやましいよ」

と東が言う。海と友は自分が有名なのは知らなかったので、少し驚いている。

「そろそろ、寮に戻らないと。また明日、蒼井さん・佐々木さん」

「「じゃあね！」「」」

と挨拶して別れる2人と4人。普通にしゃべれたのは、東や北城を見て話していたからである。中等部初日が終わり、海と友は後2人は入れる寮に戻っていった…。

レッスン1 中等部入学式（後書き）

皆さん今回のお話は如何でしたか？

ついに海や友以外のキャラが出てきました。

その名は鋼谷大地・北城翼・南野玄・東龍の男子4人です！！ちなみにキャラは後2人増える予定です。

さて、今回は新キャラを1人登場させます！！

その名は冬乃雪！

話題は変わりますが、この小説のキャラのイラストを描いてくれる人がいたら、この小説かもう1つの小説の評価・感想欄に書いてください。キャラの詳細を教えたいと思います。

今回はこれで失礼します。

以上KENSHINでした。

レッスン2 転校生

そう、それは突然の出来事だった…。その事を説明するために時間を遡る事にする。

0111

「はい、蒼井ですけど・・・」

「海ちゃん。今あなた達の部屋に転校生が来るからよろしくね!」

「はあ、分かりました。失礼します」

「海、何だって」

「転校生が私たちの部屋に来るって」

その会話から5分後

「あ、この部屋に海さんって方がいるって聞いたのですが？」

「ワタシだよ!ワタシが蒼井海。こっちが親友の」

「佐々木友です!君の名前は？」

「アタシは雪、冬乃雪。よろしく・・・」

「よろしく!冬乃さん」

「よろしく!雪」

その後3人は自分の趣味や好きなことについて話していたが

「そろそろ教室に行かなきゃ!友へ行こうよ!」

「待つてよ!海!雪も行こう?」

「私も良いんですか?」

「良いも何もここ何にも分からないんですよ?」

「はい!じゃあ、よろしく御願います!」

海と友は学園内を案内しつつ会話しているうちに教室に着いた3人朝のSHRで

「冬乃雪です!皆さんよろしく御願います!」

と、自己紹介を終え無事に授業が終了した放課後に起きてしまった雪を含む3人で話していると、

「冬乃さん可愛いよな!」

「ああ。でも、なんであんなに髪が白いのが気になるけどな!」

ブチッ!!

「おい!貴様、今なんて言った?」

「え？か、髪が白いつて……」

「許さない！消えてしまえ〜！！」

このとき教室にいた全生徒が

冬乃さんの髪に関する話はしないでおこつと思つた瞬間だった…

レッスン2 転校生（後書き）

今回のお話如何でしたか？

新キャラの雪は髪が白いか自分の髪にかかわる単語を聞くとキレます。

ちなみに、NGワードを言った生徒Aは病院に搬送されそうになりました。

さて、評価や感想がなかなか来ません。

なので、そういうのがありましたら遠慮せず書いてくれればと思います。

今回はこれにて失礼します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4727h/>

未来の自分へ 今、私は幸せですか？

2010年10月15日23時32分発行